

藤 支 発 4 2 号
平成 2 6 年 7 月 4 日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校
校 長 橋 本 輝 幸

平成 2 6 年度 第 1 回学校協議会について（報告）

平成 2 6 年 6 月 2 7 日（金）に開催致しました学校協議会の要旨を報告致します。

協議会会長：智原 正行（社会福祉法人 向陽学園 理事）

協議会委員：石谷 淳二（藤井寺市立藤井寺小学校 校長） 都合により欠席

小畑 宜寛（社会医療法人医真会 介護老人保健施設あおぞら 事業部 副部長）

竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）

梶ヶ山 叶（藤井寺市民生委員児童委員協議会）

梅原 佐保子（P T A 会長）

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・挨拶 校長 橋本輝幸

本会は学校力向上に寄与する重要な会議と認識しているので、よりよい学校の構築のために、助言や提言をお願いしたい。

2 報告

① 平成 2 5 年度 進路状況について（進路指導部長）

- ・小学部 卒業生 8 名 うち 本校中学部進学 8 名
- ・中学部 卒業生 2 6 名 うち 本校高等部 2 6 名
- ・高等部 卒業生 2 1 名 2 1 名進路先決定
例年 8 ～ 9 割が生活介護であったが、今年度は 5 割である。
就労継続支援 B が 5 名。
四年生大学進学が 1 名。
職業能力開発校 3 名（昨年度の卒業生が 1 名再チャレンジし合格した。合計 4 名）

② 平成 2 7 年度 教科書選定について（首席）

- ・選定経過の概要、調査委員の構成を説明。
- ・小中学部のこれまでの資料を基にし、高等部も重複しないように配慮している。
次回の協議会では実物の提示や選定の報告予定。

③ 平成 2 6 年度 学校経営計画及び学校評価について（校長）

- ・中期的目標として 3 つの項目をあげている。
- ・「振り返りシート」を提示。教員間での授業力向上と保護者による授業アンケートも活用しながら、授業力向上に努めている。
- ・進路指導部中心に研修部と連携しながら校内に発信し、各学部具体的に実践している。現在あるキャリア教育の指針をもとに「藤井寺支援学校版」の改善を進めていく。

- ・危機管理については、通学バスの人身事故があった場合や震度5以上震災時の具体的対応策等について検討を進めている。
- ・教職員の健康管理に具体的に取り組む。産業医との連携でメンタルヘルス研修会等実施。
- ・地域連携とセンター的機能の発揮。
- ・2学期には学校評価自己診断結果とあわせ、進捗状況を報告予定。また、学校協議会からのご意見や助言・提言もまとめて府教委へ報告することになっている。

3 協議 本校の「平成26年度 学校経営計画と運営方針」について 「専門性の維持・向上について」

- (校長) 自立活動のスキル向上にむけ、今年度より体制を少し変えて実践している。また、全国肢体不自由教育研究会では「スパイダーの活用」についてポスター発表予定。
- (PTA会長) デイサービス活用が増えているなか、学校とヘルパーの違いを混同しないよう保護者も気をつけたい。授業公開の実施により子どもたちの様子がよくかる。子どもの気持ちを親が代弁することが多い実態の中で、保護者の意識もあげていきながら、保護者が想いを伝えていくことが大事。保護者と教師の意思疎通がかなり大きな力となる。
- (会長) 授業公開の仕方の工夫や保護者の呼びかけの工夫がまだまだ必要かと思う。
- (校長) 1週間を参観週間とし参加しやすいように工夫してはいる。
- (会長) 子どもの授業評価が反映すると、教員の授業力にもいい影響があるだろう。

「教職員の健康の維持・増進について」

- (医療) 感染対策、腰痛で悩むことが多い。個人情報面で本人の健康管理は本人任せになっているのが現状である。検診後のケア、メンタルヘルスについては何度も研修している。(職員を小グループに分けて) 対人関係のストレスが多くなっている。
- (校長) 産業医を活用している。健康診断の結果についての説明会を実施した。初任者のケアや対応を工夫できるよう体制をとっている。
- (会長) 職員にとって働きやすい職場作りが大切。校医や産業医との連携を強みにして活用していくことが大事だと思う。

「進路について」

- (福祉) 100%の進路訪問について
- (進路指導部長) 訪問及び電話での対応も含めほぼ100%行えている。
- (福祉) 卒業生としては感謝するところ。やはり頼りにするところは卒業した学校である。学校と違う環境に不安も多く慣れるのに時間がかかる。しんどい子もいるので「次へつなぐ」ことも必要なることもあるだろう。
- (校長) 卒業後の可能な範囲で、今後も継続していきたい。
- (会長) 送り出した学校として、教育が福祉現場でどうなっているのか等途切れさせないで繋がっていけることが大事。支援計画が福祉現場でいかされていない。活用されていくことを強く希望する。
- (進路指導部長) 紙ベースでの対応だけでなく、生の声で学校と福祉が直接つながれたほうがよりよいと思っている。

「キャリア教育について」

- (会長) 小中高と早い時期から充実していくことをねらいに研修等重ねておられると思う。
- (PTA会長) PTAベルマーク委員で協力会社(高等部C班生徒の自立活動で取り組んでいる

会社)に仕事依頼をした。子どもたちが仕事を請けたことをお便りにして配布したところ、反響が大きいたくさんのベルマークが集まった。「人に認められる機会」「ありがとう」と言われる場面が少なく、設定しなければなかなかない。「自信がつく」ことへの協力ができたらと思っている。

「地域連携について」

(校長) インクルーシブ教育としてリーディングスタッフ等の派遣を行う中、地域の支援教育のスキル向上を期待しているが、現実には支援学校に在籍する子どもたちは増加している。

(会長) 就学前に悩んでいる方が多いと聞いている。早いうちに連携できるとよい。

(地域) 地域連携のために本校が開催しているで陶芸教室にも近隣の方々は、花の苗植えや草引きも年に1回ボランティアで行っている。もう1回ぐらい回数を増やしてもと思っている。地域の人が校舎周りをのぞいてもらえるような機会があればいいと思う。

(校長) 学校訪問や放課後の学校見学等企画し、地域の方と一緒にできるものがあればと思っている。

「命を守ることにについて」

(医療) ヒヤリハットは収集されて、分析を共有することが大事。時系列に詳しく報告してもらう。「事故を0にする取り組み」でもあるが「もし事故が起きたときの被害を少なくする取り組み」でもあるので両方を進めていくこと。また、画像で残すこともわかりやすい。

(福祉) ヒヤリハットをヒヤリハットと思わないことが危険である。慣れてしまうことが危険。

(校長) 個人の対応によるものとししないで全体として共有するものとして捉えること。

「人権について」

(PTA会長) 授業や休憩時間等場面に応じてけじめをつけて呼んでもらえたらよい。「呼び名の改善」を項目として1つ取り上げていることのメリットは？

(校長) 教員の人権意識の更なる向上と卒業後慣れない環境下での呼び名への戸惑いがないように準備期間としての意味もある。

4 まとめ

(会長) 呼び名は人権のスタートである。その人を認めていくこと、人として名前があることを基本に一人ひとりを大切にしていくこと。

閉会